



1



3



4



1 2 「山車漢」は、山笠をこよなく愛する老若男女を表している。女性にもマッチするTシャツは、掛け声と掻き棒がモチーフの2タイプを用意。赤池、方城バージョンも考案中。3 8月1日「福智町Love カナダ Fiesta」で初披露された。4 試作中の焼酎カップ。

企画・販促ボランティアを募集しています。 藤春秀徳 090-4515-4046 E-mail tbpwh011@ybb.ne.jp

Pickup Topics



色▶ホワイト、ナチュラル、ブラック、ネイビー、オレンジ、アプリコット、ピンク サイズ▶120キッズ、XS、S、M、L、XL 税込価格▶¥3500 ※売り上げの20%が基金になります

●ローカルブランド「山車漢(ヤマカン)」 地域の誇り 全国に発信



キーワードは祭りと地域振興。金田商工会青年部の藤春秀徳さんが「山車漢」ブランドをプロデュースしました。町が誇る「祭り」を全国に向けてアピールし、その収益金を地域振興のための活動に役立てようと計画中です。

商工会青年部活動などを通じて地域振興に取り組み藤春秀徳さん(神崎)が、故郷の自慢をいつでも誰にでも発信できる素材として「祭り」をデザインした「山車漢」ブランドを考案しました。このブランド展開第一弾のTシャツはまだ発表後3か月ですが、現在町内だけにとどまらず、県外でも好評を得ています。そのほか日王焼のオリジナル

ナル焼酎カップなども試作中。藤春さんは「地域振興の基盤になるエネルギーは、そこに住んでいる人たちの故郷に対する誇りや自慢からくるもの。年に一度、御興や山車(山笠)が勇壮に練り歩く「祭り」こそが、この町から誇りを持って町外へ発信できる素晴らしいものだと思います」と力を込めます。販売して得た収益金は「山車漢基金」として積み立て、他の地域おこし活動に資金援助し、地域振興の相乗効果を図る「山車漢プロジェクト」として計画を進めています。「インターネットや通販などの販路をさらに拡大して、福智町の誇りを日本全国や欧米などにも発信していきたい」と意欲を見せる藤春さん、今後の活動から目が離せません。

福智の風

▶博多山笠の昇き手がぐわえタバコだったら、岸和田だんじりの曳き手がビール片手だったら、被り物姿で山笠に乗っていたら観客はどう感じるだろうか。今回15基の山笠を撮影したが、そういう姿が写り、掲載できない写真も少なかった。もちろん立派に統制され、ゴミひとつ出さない山笠もあった。掻き手の誇りとPR次第で福智の祭りは日本を代表する存在になれる。すでに観光客を興冷めさせないよう意識する時期にあると思う。(長野)

▶今月は3つのお祭りをはじめ、イベント盛りだくさん。最高の瞬間や素晴らしい表情にたくさん出会えました。撮った写真はかなりの数ですが、掲載できる写真には限りがあります。掲載できなかった人は本当にごめんなさい。しかし、今回掲載できなかった写真もポスターやイベント情報、情報誌への写真提供などその他の機会で紹介することがあるかもしれません。(昌太郎)

▶裁判員制度の対象となるのは、殺人などのある程度重大な事件だそうです。テレビなどから毎日のように耳に入ってくる物騒なニュース。特に無差別殺人や罪もない子どもが殺されるような事件は、決して許されることではありません。裁判で罪人を裁くことはできても、失われた命は二度と戻らないし、被害者遺族の人生も大きく狂わせます。制度の対象となるような事件がこの町から、できればこの世から出ないことを願います。(日吉)

地下足袋を脱いで一息彼岸花
枝の花のちらっと葉の透きに
葉拾ふ猪の足跡残る径
古寺の縁に大師と日向ぼこ
人生に逃げ場などなし鴨鋭声
連れ合ひと酒くみ交し月今宵
塀ごしの隣の声や柿の秋
虫時雨荒れし狭庭の闇深く
秋の宵ぼっかり浮かぶ雲一つ
友垣に秋草活けて客設け
過去今につなぎて木の実落つるかな

- 池田 一步選
- 小笠原雄子
- 久松ミサオ
- 小場 妙子
- 丸山 鈴子
- 吉田 弘
- 安田 健一
- 大久保幸子
- 亀谷千恵子
- 宇野八重子
- 森 玲子
- 池田 駒女

養命大学・隣保館俳句会

雨止みし間にふくらむ虫の声
太陽の光りの粒の今年米
かりそめの色に咲きけり酔芙蓉
もろこしの胸をのぞきて買ひにけり
富士を背に騎馬戦競ふ運動会
燈火親し広辞苑這ふ虫眼鏡
秋冷の崖を背負ひて権現社
蜻蛉は鉄棒が好き空が好き
稲雀塙へ帰る声合はす
骨抜き秋刀魚の夕餉ケアハウス

- 岩井鬼童選
- 松岡 萬枝
- 建部三由紀
- 日比生利子
- 永尾喜美江
- 小川 雪
- 長副美恵子
- 迫田 昌子
- 香月 富子
- 今井三千代
- 花石かほる

福智町金田公民館俳句教室

峠への径は人幅通草の実
病めば尚命いとほし曼珠沙華
散り急ぐ桜紅葉にある回顧
秋の蚊の小さく素早く見失ふ
里の子に忘れ去られし山葡萄
秋夜長回顧しみじみ読書また
ともつなの釣舟軋む望の月
秋時雨汝が背の寂しさう
待ち待ちて月下美人の香り立つ
満天の星を戴き秋祭り
間に聞く鈴虫の声澄みわたる

- 池田 一步選
- 石橋 勝己
- 松本美根弥
- 野村 鈴子
- 桑野 昌宜
- 白石 凡子
- 渡邊 一枝
- 尾崎 和子
- 藤井耿之介
- 杉 フジエ
- 倉石嘉代子
- 木村 誠一

方城句会

四季の歌

心映の投句

雨の降り運動会は中止なり今日ひと日孫はいかに過ぎさむ
早稲の田の刈林にひびえ青々と早苗のごとし風に揺れつつ
総り田に飛び来て小型飛行機の上下をしつつ白き粉を撒く
百一歳の母安らかに他界せり一生をかけて平和を願いつ
こぼれ種のコスモス咲きて赤ピンク花籠に挿せば秋があふるる

- 岡野富生
- 三村 和子
- 福田 昌
- 越智 早苗
- 加治 智子

ともしび短歌会短歌詠草